

交流

発行日:平成24年5月28日 第12号
福島日中文化交流会 事務連絡先
〒960-0613 福島県伊達市保原町字内町21-5
Tel/Fax 024-575-2071 携帯:090-2360-3275
Email:mayumi_mihojp@yahoo.co.jp
URL:http://www.rizhongwenhua.com

国際婦人デー記念レセプション出席



(宮暁冬新潟総領事館副総領事と岩間真弓)
岩間真弓

平成24年3月3日中国人民共和国駐新潟総領事館のお招きで国際婦人デー記念レセプションに出席して参りました。国際婦人デーは、本来なら3月8日に行われるところではありますが、3月3日は、日本のひな祭りに当たり女性のために開催するので日本に合わせて3月3日にしましたという宮暁冬中国人民共和国駐新潟領事館副総領事のご挨拶がありました。今回、私は福島県からの参加ということで領事館のみなさんから震災のお見舞いの言葉もありました。宮副領事は、今年是中国国交正常化40周年の年であり、総領事館は一連の記念行事を通して地域間の交流を図り、中日地域間の友好交流を推進しようとして計画している。日本と中国の友好関係の発展を促進するだけでなく、地方の人たちとの交流を深め、より一層中日経済貿易、人文、観光等各分野におけるつながりを深め、女性が力を発揮し多方面で活躍できるように期待しているとご挨拶がありました。



(司会をした鐘發麗領事と岩間真弓)

レセプションでは、日本の歌や中国の歌、貴州省から来ている新潟大学の留学生でミャオ族の石芸さんがひょうたん笛を披露するなどとても和やかな女性ならではの華やかさで会が盛り上がりました。

中国は、天下の半分は女性が支えているというこ



とわざがあり家庭でも男女平等、旦那さんが、食材の買い出しをし夕食の支度をするこ

(新潟大学留学生、中国ミャオ族の石芸さん)

ども不思議ではありません。女性の地位も高く、学校や職場でも多くの女性がリーダーシップを発揮し活躍しております。北京市の小学校は、30代の女性の校長先生も多いようです。日本では、女性の地位の観点からいうとまだまだ遅れているかもしれません。みなさんのご家庭では如何でしょうか。当福島日中文化交流会は、岩間が代表を務めさせていただいておりますので少しは、女性の地位も認められているのでしょうか。頑張らなければいけませんね。

短期留学体験雑感

短期留学体験雑感

矢部良子

人民大学は2度目であり懐かしい気分もあった。張国造老師に再会した時は感激しました。先生には私達のために順調に学習や生活ができるようご配慮いただきました。特に教科書を購入しなくてよいように各老師が必要部分のコピーを準備してくださったのは荷物の軽減ともなり助かりました。

空港での第一印象は“空気好！”でした。大学の留学生宿舍までの車窓での感想は、あんなに多かった自転車の数と自転車の数が逆転していたことです。

留学生宿舍は新築したとの事で室内の収納スペースが多くなり、名物(?)の魔法瓶ではなく電気ポットに変わっていました。地下には珈琲館と24時間営業の方便商店がありとても便利で快適になっていました。



(張国増先生と)

留学生食堂は到着した日の夕食を全員で利用しました。メニュー数が多くてえらぶのに苦労しましたが、私は“焼西红柿鸡蛋盖碗”を食べました。次の日から朝食と時々昼食でも利用しました。朝はほとんど杭式で“杭式南瓜粥と油条か问饼”昼食は“馄吨か小龙包”で、果物は部屋に戻って補い、速溶珈琲を飲んでまあまあの留学生気分を維持しました。

一度、なかなか出来ない烤鸡蛋(実は出来ていて裏表焼き続ける服務員に催促したら、即座に“没有”と言うのでレジの服務員に“二品注文したよね”と確認し、その彼女が大声で叫んだらドン!と出してくれた。両面焼(Welldane)の目玉焼きは“味道不好”。こんな時、日本人は「すみません!」と言いますが、皿をドンと置く彼女には自分の誤りを認めたくない気持ちが渦巻いていたのでしょうか?また、ある日の昼食に小龙包の打包を注文したら両角多くなりました。何と蒸籠からスパーバックにドサッと移してくれました。生ごみみたい!



(大三元にて)

二日目の昼食は大三元で立派な部屋に案内され、岩間先生のメニュー選びはさぞご苦労されたのではと思います。みんなの負担を考慮して安くて美味しいものを味あわせていただきました。以後もしゃぶしゃぶや全聚徳での北京烤鸭、ばらの香りの葡萄酒、韓国式焼肉等々でも同様でした。心から感謝いたします。

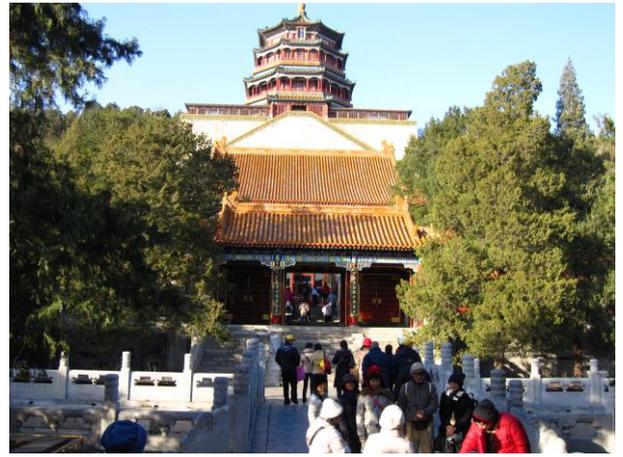
景山には初めて登りましたが、頂上から360度のパノラマを皇帝の立場で眺めれば、きっと民の暮らしぶりに安堵し政治に満足したのかななどと考えました。

京劇も良かったけれども紅劇場での功夫博奇(少林寺カンフー)はすばらしかったです。僧の誕生から鍛錬して成長し、老いて次代に引きついでいく様

子を少林寺拳法で演武するミュージカルのようなもので、とても美しく感動しました。残念なことは開演時刻に遅れてしまったので、最初の部分が見られなかったことです。次の機会にはじっくりと見たいです。

王府井は地下駐車場が大規模で6年前にはなかったものです。にぎやかなうら通り商店街の秀水園の規模が縮小し4階建ての超市になっていたのも、これは古き良き時代の消失をさびしく感じたのは私ばかりではなかったと思います。

万里の長城は右側の風景を眺めながらゆっくりと登り、途中からは一人で下りながら鳥の声をきき、その姿を探すと黒と白のからだの2羽が低い木々の下で追いつ追われつ隠れたりしていて楽しそうでした。近くで作業をする人にたずねたら“喜”とのこと。かささぎです。“クーッ、ククク・・・！”と可愛い声と動作は求愛行動だとのこと、6年前の留学生宿舎の周囲の樹上にも巣があり、時々“ギーッ、ギャーッ！”と啼いていたのですが、それは春節の頃でした。今回はやさしく快い啼き声をきいて縁起の良い鳥とされているのも納得できました。



(頤和園)

頤和園は蘇州街を通り万寿山、仏香閣を見て、特に沈まない王朝を象徴して作られた長さ36mの石製の船はすばらしかったです。道中牡丹の花冠をつけていた岩間先生はとても良くお似合いです。長廊を歩いている時は団体客の注目を浴び、次々と笑顔の集団とすれ違ってきました。と突然黄色い僧衣姿の背の高い男性が現れ何やら熱心に話しかけていました。内容は聞きとれませんでした。が何度か「何言ってんだべこの人は！」と岩間先生が言っていたので私の推測では多分黄色い話題ではなかったのでしょうか？牡丹の花冠をつけた我が西太後の美貌にすっかり魅了されてしまったのでしょうか。

今回私は体調を崩すこともなく楽しく計画通りに過ごせたことは、団長さんや皆さまのおかげだと心から感謝いたします。特に柔和な表情でTPOに即して発するひと言で腹の皮がよじれる程笑わせてくださった隠れコメディアン(?)にも感謝いたします。疲労回復の特効薬となった事は集団行動中のオアシスのように思われました。思い出しました。集団行動と言え、元同僚の造語「公先私後」です。今後は私も努力目標にしていこうと思いました。



(岩間西太后と僧侶)



(焼き芋を買う)

春節

2012年1月22日実施

春節会

坂本 砂知

1月22日、中国の暦でちょうど除夕にあたる日、恒例の春節会が行われました。

私が会場に着いた頃には、すでにたくさんの会員の皆さんが、餃子用の野菜を切るなど準備を始めていて、調理室は包丁のテンポの良い音と、楽しそうな話し声で、活気に満ちていました。

今年は、日本のお正月には欠かせない「お雑煮」や「あんこもち」などの料理も加わり、日中のお正月「食文化」の交流という感じでした。

また、中国の「張さん一家」の春節の過ごし方を紹介する寸劇も登場し、楽しいひとときとなりました。

あの震災から一年が過ぎましたが、今回の春節会の賑やかな雰囲気の中で、私は、何でもない平和な日常のありがたみを強く感じました。

来年の春節も、皆さんと楽しくお祝いできますように！



(「張さん一家の春節」の一コマ)

春節

2012年2月5日実施

福島市国際交流協会の依頼を受けて、2月5日にMAX ふくしま 4階アオウゼで春節の催しを披露してきました。

【春節交流会に参加して】

三瓶 純子

2月5日に行われました「春節交流会」に参加させて頂きました。

「本場の餃子作りが体験できる」と伺い、食べる事の大好きな私は早速申し込みました。

当日は大盛況で、大人も子供も賑やかに、餃子作りを楽しんでいたようです。



(餃子作りを指導)

生地をこねる作業は想像以上に力仕事でしたが、何とも言えず気持ちいい感触でした(笑)

麺棒で皮を伸ばす作業は、中国人のママ達が綺麗に、手早く作業しているのを見て、私もやらせて頂きましたが見るのとやるのとは大違い！それでも皆さんでワイワイガヤガヤ楽しく出来ました。

中国餃子には思い出があります。

私の祖父は昔、満州の日本人学校で教師をしていたそうです（1924年～46年/瀋陽と長春の間回りだそうです）幼い頃、祖母は親戚が集まると、大量の餃子を作っておりました。

もっとも水餃子や蒸し餃子ではなかったのですが、日中合作と言ったところでしょうか。



（餃子作りを体験）

今回頂いた餃子も、野菜がたっぷり入っていて、皮はモチモチ、プリプリしていました。

懐かしい思い出と共に、とても美味しく頂きました。

その後、大晦日の夜の寸劇も見せて頂きました。きれいに飾り付けをして、家族みんなで餃子を作ったり、TVを見たり・・見ているこちらにも楽しさが伝わってきました。

一年の幸せと、家族の健康を願う良き風習、良き習慣だと思います。



（中国の春節を再現）

私も沢山会話が出来るようになり、いつか本場の春節を体験してみたいと思います。

最後になりましたが、岩間先生を始め、スタッフの皆様は準備から進行までとても大変だったと思います。

お蔭様で楽しく、また貴重な体験をさせていただきました。

有難うございました。



（感想を聞かせて）



（鬼を爆竹にて撃退）



（出演者のみなさん）



（竜登場）

どよの広場

2012年2月18日実施

2月18日、中央学習センターのどよの広場に参加しました。これはその時の模様です。

どよの広場

渡部千佳子

今回もいつもように、民族衣装の展示と試着を中心に、中国グッズをディスプレイ！！中でも、この度初登場の真っ赤なランタン（红灯籠）が雰囲気醸し出し、外からも（会場は2階）目立つ程印象が強く、効果バツグンでした。

子供焼く55人が来場しました。

岩間代表、齋藤副代表、猪股幹事、渡部が参加しました。



（民族衣装を着た女の子と）



（民族衣装を着た女の子）



（民族衣装を着た女の子たち）

祝卒業

2012年3月2日福島東稜高校卒業

日本語教室の生徒だった李世遠さんが3月2日福島東稜高校を卒業しました。中国からのバスケットボール留学生であった李さんの事が各紙に取り上げてられていましたので紹介します。併せて李さんの今後の活躍を応援したいと思います。

日本行き中途半端に終わりにたくない

196 ㎝の長身を生かし、ダンクシュートに励む。そんな高校生活とも3月2日の卒業式で別れを告げる。

バスケットボールの強化選手として3年前、中国の天津市から福島東稜高校に留学した李世遠さん（19）。2年の夏には県の選抜選手に選ばれた。

昨年3月17日。原発事故に伴い、中国の総領事から東稜高校に連絡が入る。「JR 福島駅西口に至急集まるように」。雪がちらつく中、バスケ留学の同級生干凱さん（18）と一緒に、小原敏副校長（58）らに付き添われて駅に着いた。

副校長から10万円が入った封筒を手渡された。教職員の有志で集めたお金だった。『『必ず帰ってこいよ』と手を握られました。これからどうなるのか不安で仕方なかった。先生や友達を置いて自分たちだけ逃げていいのだろうか、とも思いました』

中国に戻った。「どんな仕事を探そうか」。父親からそう持ちかけられた。中学の頃からバスケのプロを目指す専門学校に通っていたが、断念を即された。

自問自答しながら、日本に行って間もない頃、練習中に空腹になった時のことを思い出した。

「言葉が分からず困っていたら、先生がおなかを指さし、『腹が減ったのか』と聞いてくれ、ご飯を食べてくれた。日本に行くのを反対する両親を説得してくれたのも、日本語がしゃべれるようになったのも先生たちのおかげ。プロを目指して日本に行ったのだから、中途半端に終わりにたくない』

バスケット部の顧問、小平崇教諭（35）に電話した。「先生、5月のインターハイ予選は中止ですか」。ち

ようどバスケ部は練習中だった。「中止にはならないと決まった。バスケットができるぞ。心配ない」。バスケ部のキャプテンも電話口に出た。「大丈夫。水も普通に飲めるよ」

両親に日本に帰ると伝えた。「親だけじゃなく、親戚からも『バスケなら中国でもできる。なぜ放射能のところに戻るんだ』と反対されました」。しかし、意思は変えなかった。

5月9日、北京空港に向かう朝。「母は何も言いませんでした。もともと口数は少ないし。悲しい顔をしていました。父は『決めたことだ。』がんばれ』と励ましてくれました。

インターハイ県大会は3位に終わった。しかし、将来性を買われ、大東文化大学への入学が決まる。

最後の大会が終わった10月、バスケ部の後輩にあいさつした。「いろいろお世話になりました。新キャプテンへの忠信を忘れず、頑張ってください」。東稜での生活はひとまず終わり。そう思うと悲しくなるからあいさつは短く終えた。

2012年2月26日朝日新聞（ふくしまの言葉）



卒業で「感謝忘れない」

「日本の古里は福島。感謝を忘れない」。お世話になった先生や仲間への思いを胸に、福島東稜バスケットボール部の中国人留学生、李世遠さん（19）は2日、3年間通った同校を卒業した。

「離れても心は福島に残している。夢はプロだが、日中友好に役立つ仕事にも興味が出てきた」と話す。周囲からの期待を背に、新たな舞台へと羽ばたいた。

2012年3月5日福島民友新聞抜

健康マージャン大会

2012年3月17日実施

3月17日、雀荘しのぶにて健康マージャン大会が開かれました。当日は12名の方が参加し闘牌を繰り広げました。

結果は高橋雄三さんが、実力を発揮し見事優勝しました。優勝者のコメントを以下に掲載しました。

毎月第二日曜日に中央学習センターにて健康マージャン教室を開催しております。見学だけでも歓迎ですので、一度覗いてみてください。

また、今後も健康マージャン大会を予定していますので、是非多くの方のご参加をお待ちしています。

マージャンは「運」で勝つ

高橋雄三

私と中国を結ぶ「絆」はマージャンである。若い頃少しやったが、ブランク40年。おまけに古希も近いこの頃は、記憶ボロボロ、目はショボショボ。

そんな中での健康マージャン大会、入れ歯飛ばして必死のポン、チー。結果は、なんと奇跡の優勝。裏ワザの出しにくい全自動雀卓が正直者の私に味方してくれたのかも知れません。古人いわく「正義は勝つ」と。

なお、優勝賞品は本場のマッコリ一本。昼は中国伝来のマージャンを楽しみ、夜は韓国酒のマッコリで、日本人妻と乾杯！まことに国際交流を実跡した春の一日でした。

最後に、負けてくれたみなさん、どうもありがとうございます。来年はがんばって下さいね。



花見会

2012年4月22日実施

今年の桜は例年より一ヶ月程遅れての開花。まさに満開の4月22日、旧佐久間邸でお花見会が開かれました。天気も快晴絶好のお花見日よりでした。ただ、惜しむらくは旧佐久間邸の敷地内には桜がありませんでした。

それでもお花見は花より団子。今回はみなさんがそれぞれ料理持ち寄りでの参加をお願いしたのですが、ほんとうに多彩でおいしいお料理を持ってきていただきました。

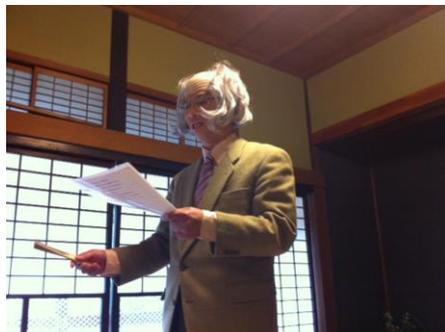
散らし寿司・白玉団子・肉まん・玉こんにゃく・豚の耳の料理・果物・お酒などなどテーブルに乗り切らないほどの得意料理が集まりました。それに今回たくさんの方に参加していただいたのですが、皆さんの持参していただいたものが被ってなくて量も適量で、みなさん相談したわけでは無いと思いますが、以心伝心振りには驚きです。

今回都合で参加できなかった齋藤忠一さんからジュースとノンアルコールビール。渡辺永治さんから自家製の甘酒（急な陽気の良さに少し発酵が進んでいたような）を提供していただきました。ありがとうございました。



(テーブルいっぱいの手料理)

それから、皆さんに得意の料理のほかに得意な出し物も持参してくださいとお願いしましたが、鳴原晃さんが、中国語での漫談を扮装つきで披露してくださいました。紙面ではその音声は再現できませんが、写真にて熱演と楽しさ、面白さを感じ取ってください。



(鳴原晃さんの熱演)

やはり花見は花より団子。桜が無くてもお花見は楽しいと思える会でした。それでも桜も有っていいかな。来年は桜のあるところで開催してもいいかなと帰りの道すがら満開の桜を見ながらチラッと思いました。

(齋藤佐久男)



(楽しく歓談するみなさん)

日本語教室

どよの広場

2012年5月12日実施

日本語教室で熱心に指導に当たっている先生方の懇親会が4月24日、福島市内の精華苑にて行われました。

『それぞれの夢に向かって』

菅野隼人

4月24日に福島市の日本語教室の先生方と精華苑で会食をしました。岩間先生をはじめ、猪股先生、坂本先生、安齋先生と私の5名が参加しました。日本語教室は毎週木曜日16:00~18:00まで福島市中央学習センターで行っています。福島在住の中国人の方々が熱心に勉強しています。

私は4月から日本語を教える立場として教室に参加しています。しかし、学習者と話をしていくうちに、学習者の抱える悩みや問題に気づくときがあります。日本語をテキストに沿って教えるだけで、何も問題の解決の手助けになることができない自分がとても悔しく思います。よりお互いの理解を深めていくためにも、中国語を勉強し、共に成長していきたいと思います。



(岩間代表と日本語教室講師のみなさん)



(衣装を選ぶ子供たち)



(クイズに答える子供たち)

「土曜の広場」に参加して

坂本 砂知

今回初めて「土曜の広場」の催しに参加しました。日中文化交流会のチャイナコーナーでは、「少数民族の衣装の試着」または「中国クイズ」のどちらかを選ぶ形式で、たくさんの子供たちが来場し、チャレンジしてくれました。

小学生の女の子は、やはり色とりどりの衣装に興味があるらしく、一人で何着も試着する子もいました。男の子は、ほとんどがクイズを選択し、「パンダの尻尾は何色?」「中国の首都はどこ?」といった、難問(?)に真剣に取り組んでいました。答えが分ると、目をきらきら輝かせて、元気に手を挙げている姿が、とても可愛らしかったです。

こういった身近な催しを通して、たくさんの子供たちが中国という国や文化を知り、日中の交流に興味を持ってくれればよいなと感じました。

漢詩

※「李遊」は、中国語会話教室の李淑薇先生のペンネームです。

駒山参拝

李游

寒山雪径烟迷茫，
神社纷沓鸟惊慌。
钟鼓笙声重霄度，
遥送恶梦迎龙祥。

归路做客药王寺，
寂静门庭一隅光。
击钟慰祭先人魂，
缭绕美愿应声扬。

大意

駒山参拝

李游

寒山の雪道は茫漠と煙り、
神社はひっきりなしの参拝で鳥は驚きあわてる。
鐘、鼓、笙の音は高い空に上り、
悪夢を遠く送り吉祥を迎える。

帰路、薬師寺を訪れる。
門前の静寂に一隅の光。
鐘を打つ音は先人の魂を慰め、
願いは音と共にまわり高く上がる。



落花吟

李游

落瓣飘零尽绿池，
鸳鸯惜春泛涟漪。
花絮满掌舟香彻，
黛玉犹改葬花词。

大意

落花吟

李游

花びらが散り、緑の池に落ちてしまい、
オシドリが春を惜しみ、緋色の波紋を浮かべる。
花びらが艘ついて、花の香りがしている。
黛玉はそれでも『葬花詞』を詠むだろうか。

注)『葬花詞』

『紅樓夢』のヒロイン林黛玉、花塚に落花を埋めながら詠んだ詩。



惜花

李游

料峭春寒柳翠堤，
山峦樱色鸟争曦。
旅人络绎惜花影，
醉倒花林忘返时。
但愿天公知人意，
不忍一朝为红泥。

大意

惜花

李游

肌寒い朝、柳は堤を緑にする。
山並みは桜色に、鳥は朝日を競い。
旅人は、絶えず花の姿を惜しんで来る。
花に心奪われ帰る時を忘れる。
天に願う、人の気持ちを分かってほしい、
直ぐに紅の泥となるのは耐えられないと。

徳望

李游

高才博学通古今，
桥水委婉知书琴。
重徳谦逊为师表，
夫子品格众人钦。

大意



高い才能、博識は古今に通じ、
橋脚の流水のごとくゆったりと丁寧に芸術を語る。
重ねた徳は謙虚で人の見本となり、
夫子の品格は衆人が敬う。

徳望

李游

注) 夫子

長者、賢者、先生などの尊称。

漢詩入門 一海知義著『漢詩入門』より

漢詩の基本的な用語を説明します。

*脚韻について

漢字を発音したときに耳に残る「ひびき」が「韻」で「余韻」の「韻」です。漢詩は原則二句でワンセットですので、偶数句末で「韻」を同じにします。

*対句について

第一に、字数が同じであること。

第二に、対応する文字や言葉の性質が対称的で、対照的であること。

第三に、対応する文字や言葉が対であるだけでなく文や文法構造も対にならなければならない。

*平仄について

原則は漢字を中国語で発音して、一声と二声は「平字」、三声と四声は「仄字」になります。ただし漢字を日本の古い歴史的仮名遣いで表記したとき「フ・ツ・チ・ク・キ」で終わる二音節の漢字は「仄字」です。たとえば「国」は中国語では二声ですが日本語では「コク」とクで終わるので「仄字」となります。

*平仄の合わせ方について

平仄を合わせるにはさまざまな法則がありますが、基本的なものは

「二四不同」 五言詩

「二四不同、二六対」 七言詩

各句の二文字目の平仄を逆にし、二文字目と六文字

目を同じにする。

「下三連を避ける」

各区の下三文字が同じ平仄で並ぶことを避ける。

「孤平をきらう」

平字が仄字に挟まれることをきらう。特に五言詩での第二文字目、七言詩の第四文字目でその禁を犯すことを嫌います。

「脚韻は平」

偶数句末（脚韻）は平にし、奇数句末（韻をふまない字）は仄とする。

*古詩と近体詩について

六世紀（六朝時代）以前の詩を古体詩（略して古詩）といいます。そして七世紀（唐）以後、新しく平仄の法則に従って作られた詩を近体詩といいます。

*近体詩の条件について

一、一句の字数が五言か七言である。

二、句数

1、四句 絶句

2、八句 律詩

3、十二区以上 排律

三、脚韻

1、必ず偶数句で韻を踏む。（ただし七言詩では、第一句末で踏むことがある。）

2、「一韻到底」といって、途中で韻の種類を変えない。

3、脚韻の文字は平字とする。

四、対句

漢詩では二句を一組にして「聯」といいます。最初の聯を「首聯」、最後の連を「尾聯」といい、首聯と尾聯以外は対句にする。絶句は首聯と尾聯だけですので、対句を作る必要はありません。

五、一字不重用

ただし重ね字や詩の表現として効果がある場合は許される。

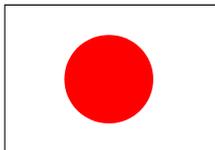
六、平仄の法則に従う。

*律詩と絶句について

もともとは近体詩全体を律詩と詠んだようですが、のちに前記の様な区分がされました。

絶句には前記の法則とは別に詩の構成に「起承転結」が求められます。

以上、鑑賞の参考にして下さい。



お知らせ



いつも福島日中文化交流会へのご支持とご協力感謝申し上げます。

平成24年度の会費及び各種会費納入のお願い

下記へよろしくお願ひいたします。

会費納入について

- (1) 郵便局振込みの場合(お近くの郵便局で)
02220-7-105525 福島日中文化交流会
- (2) 銀行振り込みの場合
振込先:普通預金 東邦銀行保原支店
口座番号:733649
名義人:福島日中文化交流会
代表幹事 岩間真弓
住所:〒960-0613
伊達市保原町字内町 21-5
- (3) 会費について
法人会員 10,000円 個人会員 3,000円
中国人会員 500円

中国語会話教室からお知らせ

◎ 中国語会話教室第40期募集中!

日時:平成24年4月～平成24年9月

場所:福島市中央学習センター

内容:

入門

講師:岩間真弓

毎週木曜日午後6時00分～7時00分

初級

講師:岩間真弓

毎週木曜日午後7時15分～8時45分

中級

講師:李淑薇

毎週火曜日午後6時30分～8時30分

費用:一ヶ月 3,000×6ヶ月=18,000円

※一クラス分の授業料で3クラス受講可能

※各クラス授業日は都合により変更する場合があります。



◎第77回中国語検定試験開催

日時:平成24年6月24日(日)

場所:福島テルサ

内容:準4級・4級・3級・2級・準1級

「当面の行事のお知らせ」

1 花架拳教室

日時:毎月第2日曜日(都合により変更もある)

場所:福島市中央学習センター

内容:護身術である花架拳を演舞する

費用:1年分 9,600円(800円×入会月から)

講師:日本花架拳学会 飯田加寿子

2 健康マージャン教室

日時:毎月第2日曜日(都合により変更もある)

場所:福島市中央学習センター

費用:1年分 6,000円(500円×入会月から)

内容:吸わない・飲まない・賭けない健康なマージャン

3 日本語教室

日時:毎週木曜日 16:00～17:30

場所:福島市中央学習センター



講師募集!

内容:中国人に日本語を教える

*講師料はお支払いできません。教科書各自負担。

4 総会

日時:平成24年6月9日(土)18:00～20:30

場所:古関裕而記念館

内容:コンサート・懇親会

ホームページ

アクセスしてね。

ブログも書いてね!!

《編集後記》

気がつけば立夏も過ぎ季節は夏。前号がでたのは確か冬だったような。春は何処へ……。次号は秋風の立つ前には出したいと思っています。皆様の記事お待ちしております。

(編集担当)